

工事検査ワンポイントアドバイス 「遠隔臨場検査について」

工事検査通信 No.67

発行： R3年6月29日

出納局 工事検査課

本年度から担当になりました唐井（かゐ）です。



渋井（しぶい）です。よろしくお願いします。それにしても新型コロナウィルス感染症の影響が大変ですね。

コロナ禍の中、監督員や受注者の皆さんは現場での対応、大変御苦労されていますね。



感染防止拡大の観点からも、接触や往来を極力避け、三密にならないように注意しなくてははいけませんね。

そこで今注目なのが「遠隔臨場」ですよ。



あ、インターネットのweb会議みたいな？でもあれって会議室をインターネットで繋ぐものですよー。

その現場版ですね。そもそもは国土交通省の施策である「建設働き方改革加速化プログラム」の省力化メニューとして位置づけられたもので、今般のコロナ禍によるリモートワーク等通信インフラの急速な普及を契機に、令和2年10月から試行しています。福島県では、土木部が発注する工事及び業務委託の「段階確認」「材料確認」と「立会」を必要とする作業で試行されていますよ。



遠隔臨場の仕組みについて教えてください。

遠隔臨場は、動画撮影用カメラにより撮影した現場の映像と音声をWeb会議システム等を利用して、離れた場所で「確認」「立会」を行うもので、受注者側には、ウェアラブルカメラやタブレット（通信機能機付）、発注者側には、ディスプレイ・マイク・スピーカー・PC等（インターネット接続）があればいいので、比較的低コストで導入可能です。

工事検査についても、この仕組みを応用して「遠隔臨場検査」を実施していますよ。



これまでどれくらい遠隔臨場検査を実施したのでしょうか。

昨年度4件、今年度は4件の合計8件の遠隔臨場検査を実施しています。細部の拡大や書類等も画面で見られるから、部材寸法等の出来形確認では特質すべき問題はありませんでした。

一方で、画面越しだから生で見るのとは違い、全体的なバランスや色合い肌合い等の「出来ばえ」の判断には慣れや機器の進化が必要など課題があります。



どのような検査が遠隔臨場検査に向くのでしょうか。

現在のところ通信環境が整備された市街近郊や比較的検査移動範囲が狭い工場検査で多く実施されています。

しかし、通信が困難な山間部や電波が弱い郊外の現場、測定が多岐に亘る大規模な現場や全体を俯瞰する必要がある現場等では、まだ対応が難しいようです。



発展途上ということですかねー。

感染拡大防止の観点から、県外の工場検査等では受注者の承諾があれば遠隔臨場で実施することとしています。土木工事等屋外の検査だと携帯（4G以上）またはwi-fi電波が強いことが条件となります。

現状では条件が厳しいものの、発注者（検査者）、受注者双方に迅速化・省力化の面でメリットがあるから、今後、5G,6G等の高速通信網の整備や対応する機器の開発、ドローンや内視鏡等と組み合わせにより一層普及していくことを期待しています。



遠隔臨場検査を積極的に活用していただき、コロナ対策だけでなく、働き方改革がより一層推進するよう期待したいですね。

●本日のポイント

【関係資料】

『建設業働き方改革加速化プログラム』（平成30年3月 国土交通省）
『建設現場等の遠隔臨場に関する試行要領』（令和2年9月、令和3年4月一部改正 土木部技術管理課）

【登場人物の設定】

○福島県 出納局 工事検査課



：唐井(かゐ)検査員



：渋井(しぶゐ)検査員